教育関係共同利用拠点事業

~多様な発達特性を有する学生に対する支援人材教育拠点~

令和元年度活動報告書



目次

1	筑波大	マグイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター (DAC センター)					
	教育队	関係共同利用拠点の事業と組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1				
	1.1	筑波大学 DAC センター教育関係共同利用拠点の事業					
	1.2	筑波大学 DAC センター教育関係共同利用拠点の組織・運営委員					
	1.3	筑波大学 DAC センター教育関係共同利用拠点運営委員会の開催					
2	数容即	関係共同利用拠点事業の各プログラム概要	2				
_	2.1	発達障害学生支援に関する他大学を対象とした FD/SD 研修会の開催	_				
	2.1	発達障害学生支援に関する相談対応					
	2.2	発達障害学生支援に有効なデータベース構築と配信					
		発達障害学生支援に関する各種講習会への講師依頼の対応					
3	**-	関係共同利用拠点のプロジェクト全体運営および広報・啓発	_				
J			5				
	3.1	教育関係共同利用拠点のプロジェクト全体運営 教育関係共同利用拠点に関する広報・啓発					
4							
4		寶宇学生支援に関する他大学を対象とした FD/SD 研修会の開催	7				
	4.1	発達障害の可能性のある学生に対するアセスメント/支援ワークショップ					
	4.2	発達障害学生支援の教職員研修に関するシンポジウム					
	4.3	発達障害と脳の多様性(ニューロダイバーシティ)に関するシンポジウム					
	4.4	発達障害の可能性のある学生に対するアセスメント/支援のシンポジウム					
	4.5	障害学生支援に関する専門テーマ別セミナー					
	4.6	多様な学生の理解と支援に関するセミナー					
	4.7	発達障害学生に役立つ支援技術に関するワークショップ					
	4.8	ウェビナー型(e-learning 型)FD/SD 研修					
5	発達障	章害学生支援に関する相談対応······ 1	7				
	5.1	個別の相談対応					
	5.2	発達障害学生支援に関する相談ネットワークの構築					
6	発達障害学生支援に有効なデータベース構築と配信						
	6.1	支援情報配信サービス「Learning Support Book(LSB)」の概要					
	6.2	支援情報配信サービス「Learning Support Book(LSB)」の共同利用実績					
	6.3	支援情報配信サービス「Learning Support Book(LSB)」の改善					
7	茶達區	賃害学牛支援に関する各種護習会への護師依頼の対応	4				

1 筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター (DAC センター)教育関係共同利用拠点の事業と組織

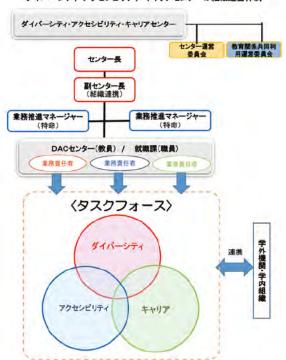
1. 1 筑波大学 DAC センター教育関係共同利用拠点の事業

独立行政法人日本学生支援機構が実施する「障害のある学生の修学支援に関する実態調査」では、大学等において発達障害等の「目に見えない」障害のある学生の在籍数が毎年増加していることが示されている。また、2016年4月より施行された障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(以下「障害者差別解消法」)に基づき、各大学では発達障害学生を含め、障害学生への不当な差別的取り扱いの禁止と合理的配慮の提供が求められている。発達障害は定型発達からの連続体(スペクトラム)として捉えられており、医学的診断の有無にかかわらず、多様な発達特性を有する学生に対する授業設計、授業運営、学生への学習・生活指導に関する知識の獲得は教員として基礎的・共通的な内容である。特に発達障害は目に見えない障害であり、障害の状態像が多様であることから、部局長や執行部向けにはコンプライアンスとしての管理運営業務において発達障害学生への合理的配慮の規模や学生指導に関する知識・技術が求められている。

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター(DAC センター)は、2019年に文部科学 大臣より教育関係共同利用拠点として認定を受け、「多様な発達特性を有する学生に対する支援人材教育拠点」 として、(1) 発達障害学生支援に関する他大学を対象とした FD/SD 研修会の開催、(2) 発達障害学生支援 に関する相談対応、(3) 発達障害学生支援に有効なデータベース構築と配信、(4) 発達障害学生支援に関す る各種講習会への講師依頼の対応などを中心に様々な取り組みを行っている。

1. 2 筑波大学 DAC センター教育関係共同利用拠点の組織・運営委員

本事業の共同利用の実施に関する重要事項を審議する会として、運営委員会を設置している。運営委員会は、発達障害や関連領域を専門とする学内外の有識者から構成されている。以下に詳細を示す。



ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターの組織運営体制

運営委員会委員一覧 (2020年 2月14日時点)

	氏	名		職名	所属
<u></u> 五-	十嵐	浩	也	センター長 (大学執行役員)	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター (芸術系)
Щ			香	副センター長 (教 授)	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター (体育系)
野	呂	文	行	教 授	筑波大学人間系
岡	崎	慎	治	准教授	筑波大学人間系
*	田	宏	樹	准教授	筑波大学人間系
佐人	本	銀	河	准教授	筑波大学人間系
田	中	真	理	教 授	九州大学基幹教育院人文社会科学部門
高	橋	知	音	教 授	信州大学学術研究院教育学系
岩	崎	信	明	院 (教 授)	茨城県立医療大学付属病院 (保健医療学部医科学センター)
丸	田	伯	子	教 授	一橋大学保健センター
佐	藤	克	敏	教 授	京都教育大学教育学部発達障害学科
竹	H	-	則	業務推進マネージャー (教 授)	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター (人間系)
宫	内	久	絵	助 教	筑波大学人間系
末	富	真	弓	ディレクター	筑波大学学生部就職課

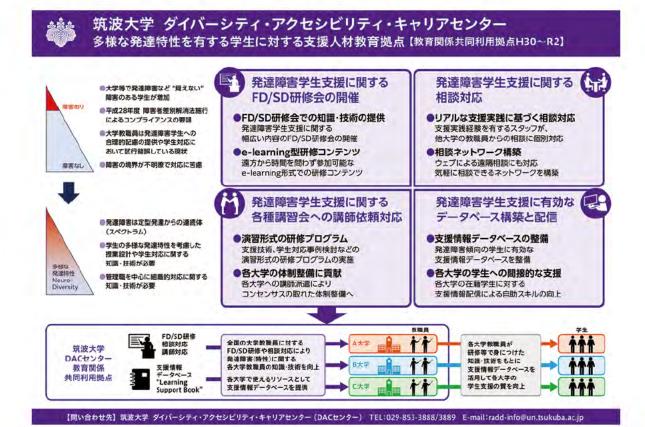
1.3 筑波大学 DAC センター教育関係共同利用拠点運営委員会の開催

2020年 2月14日 (金) に、2019年度教育関係共同利用拠点運営委員会を実施した。また、運営委員以外に連携団体のオブザーバーとして、東京大学「障害と高等教育に関するプラットフォーム形成事業 (PHED)」より高橋桐子氏、京都大学「高等教育アクセシビリティプラットフォーム (HEAP)) より舩越高樹氏、独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO) より小越真一郎氏が参加した。

委員会では、2019年度の活動実施状況、および、2020年度の活動計画(案)および支援情報配信サービス「Learning Support Book (LSB)」の共同利用について審議された。審議内容について、運営委員、オブザーバーとの意見交換が行われ、次年度の活動計画等について承認された。

2 教育関係共同利用拠点事業の各プログラム概要

「多様な発達特性を有する学生に対する支援人材教育拠点」として、(1) 発達障害学生支援に関する他大学を対象とした FD/SD 研修会の開催、(2) 発達障害学生支援に関する相談対応、(3) 発達障害学生支援に有効なデータベース構築と配信、(4) 発達障害学生支援に関する各種講習会への講師依頼の対応などを中心に様々な取り組みを行った。各プログラムの詳細は P.7に示す。



発達障害学生支援に関する他大学を対象とした FD/SD 研修会の開催

全国の大学教員を対象として、発達障害に関する定義や概念、学生対応で留意すべき事項、発達障害学生への授業や試験における合理的配慮や学生への学習・生活指導の好事例、発達障害の可能性がある学生への個別の関わり方、発達障害学生に有効な支援技術やツール、テクニック等に関するセミナー・研修等を行った。FD/SD 研修会をオンサイト(集合型研修)及びウェビナー(WEB 形式の研修)で企画・開催する。FD/SD 研修会では支援技術の体験やアセスメントの実技講習も含めた実践的内容を取り扱った。

2.2 発達障害学生支援に関する相談対応

発達障害学生支援に関して、大学等の垣根を越えた教職員間の支援・対応方法を共有している。各大学等からの訪問相談に、支援実践経験を有するスタッフが個別的に対応した。また、Webによる遠隔相談にも対応し、相談しやすいネットワークを構築した。

2.3 発達障害学生支援に有効なデータベース構築と配信

発達障害を全ての人が生まれながらに有する「脳の多様性(ニューロダイバーシティ)」という考え方に置き換えて、医学的診断の有無にとらわれず、大学に在籍する多様な発達特性を有する学生が自立して自身の学習・生活スキルを向上する支援が必要である。そのために有効なデータベースとして、支援情報配信サービス「Learning Support Book」を開発し、全国の大学等の教職員を対象に試験的配信を行った。

2.4 発達障害学生支援に関する各種講習会への講師依頼の対応

他大学からの要請に応じて、本組織の教員による講師派遣を行っている。講演等の話題提供のみならず、必要に応じて、演習形式や発達特性に関するアセスメントなど専門テーマ別の研修を実施する。これらの講師派 遣の対応を通じて、各大学の支援体制の整備に貢献する。

3 教育関係共同利用拠点のプロジェクト全体運営および広報・啓発

3.1 教育関係共同利用拠点のプロジェクト全体運営

2019年4月より、技術補佐員(広報担当:非常勤)1名、事務補佐員(非常勤)として佐々木祥子氏、研究員(非常勤)として青木真純氏を採用した。2019年5月より、技術補佐員(技術担当:非常勤)として大山博氏を採用した。2019年6月より、研究員(常勤)として脇貴典氏を採用し、教育関係共同利用拠点に関する実働体制を拡充した。

3.2 教育関係共同利用拠点に関する広報・啓発

(1) 教職員や学生、一般等への発達障害に関する理解・啓発を目的として、発達障害啓発マンガ「ヒトはそれを『発達障害』と名づけました』を作成・公開し、読売新聞、筑波大学新聞より取材を受けた。

発達障害啓発マンガ

発達障害当事者の職員による広報活動

- 障害に関するマンガを定期的にSNSへアップ



多くの人に啓発するため、発達障害啓発マンガはCCO 1.0ライセンスを適用 発達障害啓発マンガは自由に複製・印刷・再配布・改変OK! PDF・画像ダウンロード可: https://dac.tsukuba.ac.jp/radd/joint-base/manga/

(2) WEB サイト、Facebook、Twitter のそれぞれにおいて情報発信を行った。2020年1月時点で発達障害啓発マンガに関連する投稿について、Facebookでは7,273名にリーチし、Twitterの関連投稿には延べ34,031件のいいね!(全21回の関連投稿中、投稿1回あたり平均1,620件)を得ており、社会的に高い反応を得た。

(3) 教育関係共同利用拠点における取組や共同利用に関する情報を周知するために、本拠点事業に関するウェブサイトを開設した。https://dac.tsukuba.ac.jp/radd/joint-base/



4 発達障害学生支援に関する他大学を対象とした FD/SD 研修会の開催

発達障害学生支援に関する各大学教職員等を対象としたオンサイト型研修会を7回開催し、延べ639名(前年度403名)が参加した。

4.1 発達障害の可能性のある学生に対するアセスメント/支援ワークショップ

障害学生支援に関係する専門職や一般教職員等を対象にした研修会として、2019年6月28日に開催された全国高等教育障害学生支援協議会第5回大会企画ワークショップを開催し、本事業の運営委員がコーディネーターを務めた。

[題目] 「発達障害の可能性のある学生へのアセスメント/支援ワークショップ」

[コーディネーター] 佐々木銀河 (筑波大学 DAC センター 准教授)

[コーディネーター] 高橋 知音(信州大学 教授)

企画趣旨

発達障害の可能性のある学生から修学上の相談や合理的配慮の申請を受けた場合のアセスメントや支援のあり方を考える。特に、障害の状況に関する根拠資料としての心理検査等の実施・取り扱い、アセスメントに基づく修学支援や合理的配慮の検討プロセスについて話題提供を行った。話題提供を受けて、参加者で小グループを構成し、発達障害の可能性のある学生の仮想事例について事例検討を行った。

【話題提供者の趣旨】

●高橋 知音 (信州大学 教授)

発達障害の可能性のある学生へのアセスメントについての話題提供を行った。アセスメントは、機能障害や 関連要因を理解するために行うだけでなく、学生の自己理解を深めたり、合理的配慮の根拠資料としての役割 があるため必要である。また、発達障害関連の検査内容についても紹介があった。特に、大学生の読み書きに 関するアセスメントについて紹介した。

●佐々木銀河(筑波大学 DAC センター)

発達障害の可能性がある大学生への支援についてグループディスカッションを含む、ワークショップを行った。ワークショップでは、仮想事例動画を視聴しその学生に関する支援についてグループディスカッションを行った。また、アセスメントを踏まえた支援を検討するために、仮想事例のアセスメントの結果、必要な支援についてもグループディスカッションを行った。







4.2 発達障害学生支援の教職員研修に関するシンポジウム

発達障害学生支援に関わる教職員研修に関する議論を進めることを目的として、2019年9月23日に開催された日本特殊教育学会第57回大会自主シンポジウムを企画した。本事業の実施スタッフ・運営委員が話題提供を行った。

[題目] 「教職員が「わかる」発達障害学生支援の体験型研修と展開」

[企画] 佐々木銀河 (筑波大学 DAC センター 准教授)

[司会] 竹田 一則(筑波大学人間系 教授)

[話題提供] 佐々木銀河 (筑波大学 DAC センター 准教授)

[話題提供] 松田奈々恵 (筑波大学 DAC センター 研究員)

[話題提供] 末吉 彩香 (筑波大学 DAC センター 研究員)

[指定討論] 髙橋 桐子 (東京大学先端科学技術研究センター 特任准教授)

[指定討論] 舩越 高樹 (京都大学学生総合支援センター 准教授)

【企画趣旨】

大学等では発達障害など「目に見えにくい」障害のある学生が増加している。障害者差別解消法の施行に伴い、大学等でコンプライアンスとしての対応が求められているものの、発達障害の診断または傾向のある学生への支援は試行錯誤している現状にある。本シンポジウムでは、発達障害学生支援について、大学教職員が学生の状況や対応方法を「わかる」体験型研修の取組について紹介し、大学間ブラットフォームを牽引する指定討論者からの議論を踏まえて、全国的な大学教職員の支援体制のあり方についての議論を行った。

【話題提供者の趣旨】

●佐々木銀河(筑波大学 DAC センター)

筑波大学 DAC センターでは、2018年 9月より文部科学大臣認定の「教育関係共同利用拠点」として発達障害学生支援に関する全国の大学教職員を対象とした FD/SD 研修や相談対応、データベース構築、各種講習会への講師依頼対応などを行っている。FD/SD 研修では一般教職員・管理職・専門職などの属性に応じて、「発達障害の概論」、「障害者差別解消法の理解」、「具体的な合理的配慮の調整フロー」、「アセスメントの実施・解釈」、「就職・キャリア支援」、「ユニバーサルデザイン」など多様なトピックを取り扱っている。相談対応では、大学教職員が大学の垣根を超えて発達障害学生への対応について相談できるようにクローズ型 SNS を用いた相談ネットワークの構築を進めている。その他、SNS を通じて、発達障害当事者の職員が描くマンガを用いた啓発活動を広く一般に展開している。大学教職員を対象とした一連の事業を全国的に展開することで、各大学の特徴に応じて発達障害の診断または傾向のある学生に適切に対応できる知識・技術・理念の獲得を目指す。本話題提供では、筑波大学 DAC センター教育関係共同利用拠点事業の概要について紹介した。

●松田奈々恵 (筑波大学)

発達障害の診断または傾向がある学生に対して十分な対応経験がない大学教職員の視点からは、発達障害お

よびその状態像を上手くイメージできない場面も多くある。そこで、筑波大学に在籍する発達障害学生のうち、同意を得られた学生の面談記録を複数組み合わせて匿名化処理を行いながら、リアルに近い発達障害学生の仮想事例動画の制作を進めている。作成した仮想事例動画やテキストは、各大学等の一般教職員や専門職員(カウンセラー、コーディネーター)、あるいは発達障害学生と共に学ぶ定型発達の学生を対象とした研修や授業、啓発活動等への活用を想定している。例えば、発達障害学生が相談室に来談し、相談を受ける専門職員に対して修学上困っていることを打ち明ける場面を撮影することで実際の相談場面に近い状況を再現している。仮想事例動画を用いた研修・啓発により、動画を見た大学教職員や定型発達学生が、発達障害や大学生活上の困難に関するイメージを具体化し、さらには実際に自分が相談された際の対応方法についてよりリアルに検討できると期待される。本話題提供では仮想事例動画作成のプロセスおよび実際の仮想事例動画を紹介した。

●末吉 彩香 (筑波大学)

DAC センターでは障害のない学生も含めた全ての学生に対して修学に役立つ情報を配信する WEB サービス「Learning Support Book(LSB)」の実装を進めている。LSB は、①発達障害の有無に関わらず全ての学生に有用な情報(レポートや試験勉強など修学上役立つ情報、他者とのコミュニケーションの取り方の工夫等)を学生の視点で発信するコンテンツ、②発達障害のある学生に向けた情報(学内での支援機器の貸し出しや相談機関の情報等)を発信するコンテンツ、③教職員に向けた障害学生支援に役立つガイドや資料などを配信するコンテンツ、の3つから成り立っている。作成に当たり、学生向けコンテンツである①②は DAC センターのピアチューター学生が中心となる LSB 作成チームを編成するとともに、学外の発達障害当事者に内容の査読を依頼することで内容の妥当性を担保している。教職員向けコンテンツである③は、発達障害学生支援の経験を有する教職員が中心となり作成している。今後は他大学や他の支援機関でも LSB の閲覧が可能となる体制を整備し、より広範囲で発達障害学生支援のノウハウを蓄積・共有することを目指す。本シンポジウムでは参加者に実際に LSB の内容を閲覧してもらいながら、LSB の概要と今後の展開について紹介した。

【指定討論者の趣旨】

●髙橋 桐子(東京大学先端科学技術研究センター)

東京大学「障害と高等教育に関するプラットフォーム形成事業」の担当者の立場から、発達障害に関連する 専門的な障害学生支援スタンダードとその全国的な普及・展開を主な論点とした指定討論をいただき議論した。

●舩越 高樹(京都大学学生総合支援センター)

京都大学「高等教育アクセシビリティプラットフォーム」の担当者の立場から、発達障害に関連する全国の高等教育機関間の温度差を是正するために必要な展開を主な論点とした指定討論をいただき議論した。

4.3 発達障害と脳の多様性 (ニューロダイバーシティ) に関するシンポジウム

発達障害と脳の多様性(ニューロダイバーシティ)に関する議論を進めることを目的として、2019年10月 4 日に開催された筑波会議2019のスペシャルセッションとして、「ソーシャル・ニューロダイバーシティ科学の 実践・研究」を企画・実施した。本事業実施スタッフがオーガナイザー・司会・話題提供を行った。

[オーガナイザー・司会・パネリスト] 佐々木銀河(筑波大学人間系 准教授)

【企画趣旨】

現代社会において Society 5.0と SDGs を見据えた時に、多様な他者を理解し適切な関係性(社会性)を維持できる社会の実現が最重要課題である。特に、発達障害を「神経多様性(ニューロダイバーシティ)」と捉える社会モデルに基づく考え方が欧米を中心に展開している。そこで本企画では、発達障害をテーマに先駆的な実践・研究を行う若手研究者等が、多様性が活きる社会の実現に向けた未来について議論を行う。

【パネルディスカッション】

多様な発達特性を有する人々に関する先駆的な実践・研究を行っている若手研究者等によるパネルディス

カッションを行った。

●松田壮一郎 (筑波大学)

「自閉スペクトラム障害児におけるヒト-ヒト間インタラクションの分析」

●金岡あんな(株式会社 LITALICO LITALICO ジュニア)

「発達障害×外国籍の子どもへの支援のあり方とは?」

●石塚 祐香 (筑波大学)

「幼児期から学齢期のスムーズな移行につながるための研究と実践のあり方」

●佐々木銀河 (筑波大学)

「発達障害グレーゾーンの大学生への支援に関する研究・実践」

●榎本 大貴 (株式会社 LITALICO LITALICO 研究所)

「企業研究所の立場から、研究と社会実装を考える」

●伴 睦久(東京大学先端科学技術研究センター)

「ニューロダイバーシティーと障害理解の国際的動向」

【ラウンドテーブル・体験型セッション】

登壇者によるポスターセッションと、多様な特性に役立つ支援機器等が体験できるブースを設置し、本プロジェクト実施スタッフが支援機器の紹介を行った。







4.4 発達障害の可能性のある学生に対するアセスメント/支援のシンポジウム

発達障害の可能性のある学生に対するアセスメント/支援のあり方について議論することを目的として、2019年11月9日に開催された日本 LD 学会第28回大会自主企画シンポジウムを企画した。本事業実施スタッフ・運営委員が企画および話題提供を行った。

[題目] 「筑波大学における発達障害の可能性のある学生への支援~発達特性のアセスメントから多層的修 学支援の取り組み~」

[企画司会] 佐々木銀河 (筑波大学人間系 准教授)

[話題提供] 中野 泰伺(筑波大学人間系 研究員)

[話題提供] 中島 範子(筑波大学人間系 研究員)

[指定討論] 高橋 知音(信州大学 教授)

[指定討論] 望月 直人(大阪大学 准教授)

【企画趣旨】

●佐々木銀河 (筑波大学)

筑波大学 DAC センターでは、2015年度より「発達障害学生支援(RADD)プロジェクト」を展開している。 同プロジェクトでは大学等に在籍する発達障害の診断または可能性のある学生に対するアセスメントや支援に 関する研究、学内実践、他大学等への普及を進めている。特に2018年度より文部科学省教育関係共同利用拠点 の認定を受け、全国の大学等を対象にして発達障害学生支援に関する研修活動等を牽引することとなった。

大学等における発達障害学生支援では、特に医学的診断を受けていない学生において、本人からの支援の意思表明の困難や、合理的配慮の調整における障害の程度を示す根拠資料の取得が課題となっている。本シンポジウムでは、発達障害学生への合理的配慮や修学支援における「アセスメント」に焦点を当てる。筑波大学の障害学生支援部署においてアセスメントを担当する専門家と合理的配慮・修学支援を担当する専門家より支援実践に関する話題提供をいただき、アセスメント開発に関する専門家と大学のアセスメント部門を統括する専門家からの指定討論を交え、日本の大学等における「アセスメント」に基づく支援体制のあり方を展望する。

本シンポジウムでは、筑波大学の学生を対象とした発達特性のアセスメントから多層的な修学支援に関する 取り組みについて話題提供をいただき、発達障害学生支援実践のエビデンス構築、支援実践を支える専門職の 養成や体制整備、全国への普及・展開に向けた現状と課題を共有し、今後の展望について議論した。

【話題提供者の趣旨】

●中野 泰伺(筑波大学)

2016年 4月より障害者差別解消法が施行されたものの、日本の高等教育機関における発達障害学生への合理 的配慮や修学支援においては、主たる根拠資料となる医学的診断を受けることや、学生自身から支援を申し出 ることは困難な部分が多く、発達障害学生支援のあり方が課題となっている。筑波大学 DAC センターでは、 ニューロダイバーシティ(個人の多様な発達特性、以下 ND)という概念に基づき、医学的診断の有無に関わ らず、発達特性と修学上の困り感に関するアセスメントに基づく多層的な修学支援を行うため、学生に対して 修学上の困難度評価や心理・知能検査を行うアセスメント機能を DAC センター内に設置した。ND の概念を 鑑みると、日本の現状に最適化した形で、学生の神経学的多様性をアセスメントし、それぞれの多様性に基づ く支援を大学等が提供することで、多様な人材の社会参加の促進につながると考えられる。また、自分自身の 得意なところを踏まえて、苦手なところをどのように補っていくか等について考える機会を設けることは、大 学における合理的配慮の提供のみならず、学生自身にとって充実した学生生活を送ることにもつながることが 期待される。2018年度に実施した学生に対する修学上の困難度の調査では、修学上の相談窓口に自発的に来談 することに抵抗感を感じる学生が多いものの、アセスメントを通して「自分のことを知りたい」という学生は 多く、大学生に対するアセスメントは相談への足場かけとしての機能も果たしていると考えられる。本発表で は、DAC センターで実施しているアセスメント機能の役割について紹介するとともに、どのような経緯でア セスメントにつながる学生が多いのか、アセスメントとしてどのようなことを行っているのか、一人ひとりの ニーズに応じてどのようにフィードバックを行っていくことが求められるのか等、個別の心理教育的アセスメ ントの現状と課題について紹介した。

●中島 範子 (筑波大学)

筑波大学 DAC センターでは、アセスメントを通じて明らかになった個人の特性を最大限に生かしたり補ったりするため、学生自身の自助スキルを向上する教育的支援と、学生自身ではなく教育環境の調整を行う合理的配慮を修学支援の両輪とした多層的修学支援を行なっている。教育的支援の一つとして、すべての学生が利用可能な修学支援情報配信サービス「Learning Support Book (LSB)」を開発・試験運用し、授業やレポート、研究活動等で役立つ便利ツールやアプリなどの支援技術(Assistive Technology:AT)の紹介や、個々の学生

が行っている工夫の紹介をしている。支援機器の一部については貸し出しも行なっており、録音機能付きデジタルペン、紛失防止タグ、タイムタイマー、ノイズキャンセリングヘッドホンなどの使用による修学上の困難の軽減が学生から報告されている。平成30年度には、LSBをより持続的に発展させるため、外部の発達障害当事者約による査読者制度を導入し、内容のブラッシュアップにつなげた。また、アセスメントや個別相談、学生の自習室として利用している「アセスメントサポートルーム」の新たな活用スタイルとして学生のグループ活動も定期開催し、発達障害の有無にかかわらず、学生生活で困っていること、悩みや疑問について話し合ったり、学生当事者同士、あるいは外部の当事者とともに障害特性の理解を深め合ったりしている。社会人当事者や発達障害者の就労移行支援事業所に依頼してキャリア支援のセミナーも開催している。合理的配慮を提供するにあたっては、授業時や試験時の環境調整等について、アセスメント結果や本人からの聞き取り情報をふまえて関係教職員と話し合い、授業等の評価基準を本質的に変更しない範囲で、特性に応じた配慮内容を決定している。学生対応に困難を感じる教職員も多数みられることから、LSBに教職員専用コンテンツを追加する取り組みなどについて紹介した。

【指定討論の趣旨】

●高橋 知音(信州大学)

大学生を対象とした発達障害関連アセスメントの開発について討論をいただいた。高橋氏からは諸外国におけるアセスメントに関する現状を踏まえ、日本の大学等における障害の程度を示す根拠資料としてのアセスメントの必要性やアセスメント結果の解釈・活用を主たる論点とした指定討論をいただき議論した。

●望月 直人 (大阪大学)

大学内のアセスメント部門を統括する障害学生支援担当者として討論をいただいた。望月氏からはアセスメント結果をどのように発達障害学生への合理的配慮や修学支援に活用していくか、また、アセスメントや障害学生支援を支える専門家の養成および体制整備を主たる論点とした指定討論をいただき議論した。

4.5 障害学生支援に関する専門テーマ別セミナー

障害学生支援に関係する大学教職員を対象として、2019年11月14日に独立行政法人日本学生支援機構との共催で「障害学生支援専門テーマ別セミナー【ニューロダイバーシティ】」を開催した。

[題目] 発達障害学生支援がめざすもの 一支援者視点から当事者視点へ一

[司会] 中島 範子(筑波大学人間系 研究員)

[開会挨拶] 竹田 一則(筑波大学人間系 教授)

[話題提供・ファシリテーター] 佐々木銀河 (筑波大学人間系 准教授)

[パネリスト] ダックスさん (発達障害当事者)

【セミナー趣旨】

障害のある学生への支援においては学生と教職員の立場の違いから、教職員が支援者の視点で障害理解を促し、対応方法を伝える取組が多く行われている。一方で、障害のある学生が自分自身で決定するセルフアドボカシーを重視し、社会参加するために支援者ができることを考えることが一層必要とされている。本セミナーでは、障害を社会モデルの観点から捉える「ニューロダイバーシティ(脳の多様性)」という考え方を支援に取り入れて、特に発達障害に焦点を当て、当事者視点での障害学生支援体制の充実・強化を目的として行った。

【基調講演】

●バーンズ亀山静子(ニューヨーク州公認スクールサイコロジスト)

「学びのユニバーサルデザイン 一自分の学びを舵取りする―」では、高等教育に学びのユニバーサルデザイン (UDL) の考え方を取り入れ、すべての学生がアクセスし、学生が自分にとっての学びやすさを選びとることができるような環境づくり、授業づくりについて紹介した。

【話題提供の趣旨】

- ●佐々木銀河 (筑波大学人間系 准教授)
- ●窪 貴志 (株式会社エンカレッジ)

第1部では、「学生が大学から社会に接続するために支援者にできること」という題目で多様な発達特性のある学生を支援するための様々な取り組みや、学生の困りごとに関する調査について紹介した。第2部では、「ICTツールを活用した発達障害学生の就労支援」という題目で、就職活動に必要な自己分析の情報を学生自身が蓄積し、企業とのマッチングを図る取り組みについて紹介した。

【パネルディスカッション】

- ●発達障害当事者(在学生・卒業生)
- ●村田 淳 (京都大学学生総合支援センター 准教授)
- ●窪 貴志 (株式会社エンカレッジ)
- ●佐々木銀河(筑波大学人間系 准教授)

「支援とは?~発達障害当事者と支援者との建設的対話~」という題目で、在学生と卒業生の当事者へ、パネリストからさまざまな問いが投げかけられた。その後、フロアの参加者からの質問を紹介し、パネリストを交えディスカッションを行った。当事者からの回答として、「どこでどんな支援を受けられるのかについて、アクセスしやすいように周知してもらいたい」、「一歩引いたところで支援してほしい。障害に興味をもっていてもらいたい」などの返答があった。







4.6 多様な学生の理解と支援に関するセミナー

2019年12月12日に開催された「多様な学生の理解と支援: 留学生と LGBT 学生に注目して」において、本プロジェクト実施スタッフが話題提供を行った。

[講師] 河野 禎之 (筑波大学/DAC センター 助教)

【セミナー趣旨】

大学では多様な学生が学んでおり、それぞれの学生の背景を理解した上で教育・支援を行うことが求められている。現在、大学では留学生が増加し、多様な文化的背景を持つ学生が入学してきている。そこでは、言語面だけでなく、文化や宗教など、日本人学生との違いを理解することが求められる。また、近年ではLGBTの学生が存在することが知られるようになってきた。しかし、国内でこうした学生への対応の必要性が認知されるようになったのは最近であり、必要な対応が十分に共有されているとはいえない状況にある。この課題は高等学校にも共通して存在しており、その際には高大が接続した取組も必要となる。

本セミナーでは留学生および LGBT の学生に焦点をあて、多用な大学生への理解を深め、支援の在り方について議論した。

【話題提供の趣旨】

●河野 禎之 (筑波大学 / DAC センター 助教)

LGBT の学生支援について、事例やワークシート、ガイドライン等の紹介を行った。カテゴリー別に対応するのではなく、個々人によって状況や困難を覚える点が大きく異なるため、各学生に合わせた対応や配慮が必要である。また、当事者視点で支援を考えること、該当学生のみならず、留学生や障害学生などすべての学生支援として包括的にとらえることが重要である。これらの支援内容や最新の研究成果をもとに話題提供を行った。







4.7 発達障害学生に役立つ支援技術に関するワークショップ

発達障害学生に役立つ支援技術を大学教職員が体験的に理解できることを目的として、2020年2月19日に第12回筑波大学FD/SD研修会「障害のある学生に役立つ支援技術の体験型ワークショップ-身体障害から発達・精神障害、障害のない人を含む全ての学生のエンパワメントへ-」を主催した。

[企画·講師] 佐々木銀河 (筑波大学人間系 准教授)

【企画趣旨】

●佐々木銀河 (筑波大学 准教授)

障害のある学生に対する合理的配慮の提供および学生の社会参加や自立に向けて、支援技術(アシスティブ・テクノロジー: AT)の積極的活用が今後の高等教育に求められている。従来の支援技術は身体障害のある人向けの技術が多いものの、近年では発達・精神障害のある人や障害のない人を含め、多くの人々にとって役立つ技術も開発されてきている。本研修では、今後の大学教職員にとって必須のリテラシーとなる AT に関する知識・技術を身につけるために体験型ワークショップを行う。実際に参加する教職員が支援技術を手に取り、自身で使い、楽しみながら理解・活用することを目的として実施した。

【ワークショップ】

●佐々木銀河 (筑波大学 准教授)

AT の紹介の後に各グループで実際の支援機器の体験、および、ディスカッションを行った。研修会実施後のアンケートでは、「各支援技術を実際に使ってみることで、現場で活用することへのイメージがわきやすく、これまでのワークショップ等よりも大変有意義だった」、「身体の支援技術は比較的目にしやすいが、発達・精神の学生の支援技術は新鮮だった」「予算が少ない部署のため無料で使用できるアプリの紹介をしていただき有難かった」などの回答があった。





令和元年度

第12回 筑波大学 FD/SD研修会

第2回障害学生支援懸談会

障害のある学生に役立つ 支援技術の体験型ワークショップ

身体障害から発達・精神障害、障害のない人 を含む全ての学生のエンパワメントへ-

参加無料 定員80名

2020年2月19日(水) 13:30~17:00

筑波大学第二エリア2C404教室 対象: 筑波大学教職員(ダイバーシティ・アクセシビリティ 担当教員、関心のある教職員)、他大学等の教職員

4.8 ウェビナー型 (e-learning型) FD/SD 研修

上記のオンサイト型の研修会のみならず、ウェビナー型(e-learning型)の研修環境の構築を進めている。ウェビナー型 FD/SD 研修会は、各大学等教職員が自由にアクセスできるように e-learning システムを取り入れ、本学の関係諸規定の整備と学内外の有識者による講義動画コンテンツの作成を開始した。講義動画では教員、職員、専門的職員等の各層別のニーズに即したプログラムを取り入れている。今年度は7件の講義動画を公開し、次年度以降に内容を充実させていく予定である。

所属 講師名 (敬称略		web コンテンツでの講演題目(仮)
筑波大学	竹田 一則	障害学生支援の現状と基本的な考え方
筑波大学	野呂 文行	ASD のある学生に対する修学支援
筑波大学	大村 美保	発達障害のある学生への生活支援と福祉的サポート
筑波大学	三盃 亜美	SLD のある学生に対する修学支援
筑波大学	佐々木銀河	発達障害のある学生への修学支援
筑波大学	佐々木銀河	発達障害のある学生に役立つ支援機器
岡山理科大学	川島 聡	発達障害のある学生への合理的配慮に関連した法令の理解と コンプライアンス

5 発達障害学生支援に関する相談対応

5.1 個別の相談対応

各大学等からの発達障害学生支援に関する訪問・見学者対応10件(前年度28件)、電話・メール等での相談 対応13件(前年度9件)を行った。具体的な相談対応については下記の表の通りである。

相談対応一覧

日時	訪問者	対応者(敬称略)	概要
令和元年7月2日	星槎大学総合キャリア 支援センター 教職員 3名	佐々木銀河 (DAC センター 准教授)	発達障害学生支援に関する組織体 制整備
令和元年8月22日	茨城県立玉造工業高等学校 一般 1名	佐々木銀河 (DAC センター 准教授)	発達障害学生支援に関する施設・ 設備見学
令和元年9月3日	成蹊大学教務部 教職員 4名	佐々木銀河 (DAC センター 准教授)	発達・精神障害学生への修学支援・合理的配慮に関する意見交換
令和元年 9月 4日	法政大学学生センター 教職員 6名	佐々木銀河 (DAC センター 准教授) 中島 範子 中野 泰伺 脇 貴典 (人間系 研究員)	発達・精神障害学生への個別の対 応方法、組織的な連携方法、具体 的な実践例などの紹介
令和元年10月7日	椙山女学園大学 学務部教務課 教職員 5名	佐々木銀河 (人間系 准教授) 中島 範子 脇 貴典 (人間系 研究員)	発達障害学生への個別支援の方法、ピアチューター活動、LSBの紹介、および、学内施設の案内
令和元年12月2日	長岡技術科学大学 障がい学生支援室 教職員 2名	佐々木銀河 (人間系 准教授) 中島 範子 脇 貴典 (人間系 研究員)	障害学生への教育的支援の方法、 ピアチューター活動、学校内連 携、修学環境の整備、LSB の紹介
令和元年12月12日	九州大学キャンパス ライフ・健康支援センター 教職員 1名	佐々木銀河 (人間系 准教授)	発達障害学生支援に関する施設・ 設備の見学、支援体制に関する意 見交換
令和元年12月16日	札幌学院大学 人文学部人間科学科 教職員 2名	中島 範子 脇 貴典 (人間系 研究員)	発達障害学生の学内連携による支援方法、就職活動に関する活動や 取り組みの紹介
令和 2年 1月28日	京都市立東山総合支援学校 教職員 3名	佐々木銀河 (人間系 准教授)	発達障害学生の高大連携に関する 意見交換
令和 2年 2月12日	福岡教育大学 教職員 1名	中島 範子 脇 貴典 (人間系 研究員)	障害学生への教育的支援の方法、 ピアチューター活動、合理的配慮 申請、LSB の紹介

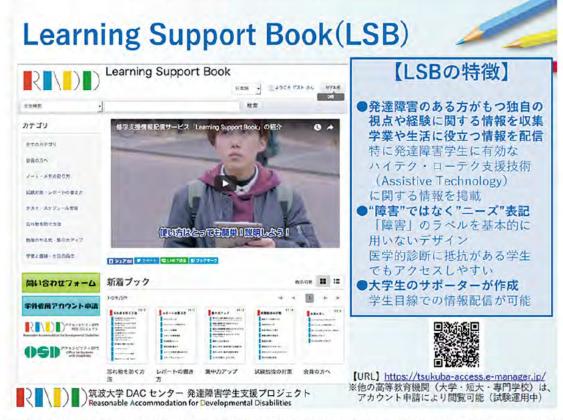
5.2 発達障害学生支援に関する相談ネットワークの構築

また、相談対応についてオンライン型相談の導入を進め、各大学教職員と支援ノウハウを共有できるようにクローズ型ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)による相談ネットワーク「RADD ネット」を11月より新たに構築した。現在までに3校から参加申込みがあり、来年度以降に普及を進めていく予定である。

6 発達障害学生支援に有効なデータベース構築と配信

6. 1 支援情報配信サービス「Learning Support Book (LSB)」の概要

全国の大学等では発達障害の診断のある学生が増加しているが、発達障害は「目に見えない」障害であり、発達障害の傾向はあるが医学的診断に至っていない、いわゆる「グレーゾーン」の学生が多く在籍している。これらの学生の中には、"障害"という言葉や医学的診断への抵抗から、相談窓口へのアクセスが難しく、各大学で学生対応に苦慮する対象層の典型である。「グレーゾーン」の学生では困っているのに有益な支援情報が受けられないため、自身の努力や性格の問題と思い込み、休学・留年・退学等で大学をドロップアウトしてしまう場合もある。そこで、発達障害を全ての人が生まれながらに有する「脳の多様性(ニューロダイバーシティ)」という考え方に置き換えて、医学的診断の有無にとらわれず、大学に在籍する多様な発達特性を有する学生が自立して自身の学習・生活スキルを向上する情報配信サービスとして開発された。



「Learning Support Book(LSB)」では、発達障害のある方がもつ独自の視点や経験に関する情報を収集している。情報収集にあたっては、筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターを利用する発達障害学生および、筑波大学の学生サポートスタッフ、学外の発達障害当事者(約40名)の協力を得ながら、発達障害のある方にとって学業や生活に役立つ情報をWEB上で配信している。

LSB に掲載されているコンテンツは、「ノート・メモの取り方」、「試験対策・レポートの書き方」、「タスク・スケジュール管理」、「忘れ物を防ぐ方法」、「勉強のやる気・集中力アップ」、「学業と趣味・生活の両立」のように、"障害"という言葉を基本的に用いないデザインにして、医学的診断に抵抗がある学生でもアクセスしやすいという特徴がある。特に、発達障害学生に有効なハイテク・ローテク支援技術(Assistive Technology)に関する情報を掲載することで、学生自身が障害特性を補うような自助ツールを活用したり、学習能力を向上するための知識を得ることができる。すなわち、大学で修学困難に陥っているが専門機関につながっていない学生への支援リソースとして活用することができるだけでなく、障害のない学生がより学業・生活上でスキルアップするための教材としても利用できる。

また、ログインするアカウントの属性に応じて、教職員向けなど各ユーザーが困りやすい事柄について必要な情報を配信することも可能であるため、FD及びSDを受講した他大学の教職員が、自校に戻った際の学習

6. 2 支援情報配信サービス「Learning Support Book(LSB)」の共同利用実績

支援情報配信サービス「Learning Support Book(LSB)」について全国85校(国立23校、公立 4校、私立55校、高等専門学校 2校、専門学校 1校)の配信を実施した。配信を行った大学等を以下の表に示す。

LSB 配信校一覧(学校種別)

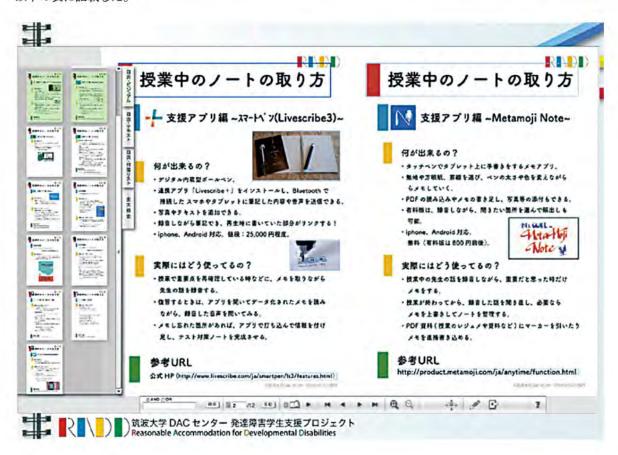
名称	種別	都道府県
北海道大学	国立大学	北海道
弘前大学	国立大学	青森県
東北大学	国立大学	宮城県
茨城大学	国立大学	茨城県
筑波技術大学	国立大学	茨城県
東京大学	国立大学	東京都
東京工業大学	国立大学	東京都
東京芸術大学	国立大学	東京都
東京学芸大学	国立大学	東京都
東京海洋大学	国立大学	東京都
金沢大学	国立大学	石川県
信州大学	国立大学	長野県
静岡大学	国立大学	静岡県
滋賀大学	国立大学	滋賀県
京都大学	国立大学	京都府
大阪大学	国立大学	大阪府
兵庫教育大学	国立大学	兵庫県
鳥取大学	国立大学	鳥取県
広島大学	国立大学	広島県
九州大学	国立大学	福岡県
熊本大学	国立大学	熊本県
宮崎大学	国立大学	宮崎県
琉球大学	国立大学	沖縄県
静岡文化芸術大学	公立大学	静岡県
滋賀県立大学	公立大学	滋賀県
大阪府立大学	公立大学	大阪府
兵庫県立大学	公立大学	兵庫県
札幌学院大学	私立大学	北海道
宮城学院女子大学	私立大学	宮城県
東北芸術工科大学	私立大学	山形県
茨城キリスト教大学	私立大学	茨城県
流通経済大学	私立大学	茨城県
獨協医科大学	私立大学	栃木県
文教大学	私立大学	埼玉県
慶應義塾大学	私立大学	東京都
立正大学	私立大学	東京都
東京経済大学	私立大学	東京都
桐朋学園大学	私立大学	東京都
創価大学	私立大学	東京都

名称	種別	都道府県
青山学院大学	私立大学	東京都
成城大学	私立大学	東京都
明治学院大学	私立大学	東京都
共立女子大学	私立大学	東京都
立教大学	私立大学	東京都
東洋学園大学	私立大学	東京都
東京基督教大学	私立大学	東京都
法政大学	私立大学	東京都
成蹊大学	私立大学	東京都
東京富士大学	私立大学	東京都
東京女子大学	私立大学	東京都
日本大学	私立大学	東京都
明治大学	私立大学	東京都
帝京大学	私立大学	東京都
目白大学	私立大学	東京都
東京有明医療大学	私立大学	東京都
東京農業大学	私立大学	東京都
関東学院大学	私立大学	神奈川県
横浜美術大学	私立大学	神奈川県
星槎大学	私立大学	神奈川県
鶴見大学	私立大学	神奈川県
湘南医療大学	私立大学	神奈川県
湘南工科大学	私立大学	神奈川県
敬和学園大学	私立大学	新潟県
大同大学	私立大学	愛知県
愛知淑徳大学	私立大学	愛知県
京都文教大学	私立大学	京都府
京都外国語大学	私立大学	京都府
立命館大学	私立大学	京都府
同志社大学	私立大学	京都府
佛教大学	私立大学	京都府
京都精華大学	私立大学	京都府
大阪歯科大学	私立大学	大阪府
四天王寺大学	私立大学	大阪府
神戸芸術工科大学	私立大学	兵庫県
甲南大学	私立大学	兵庫県
神戸女子大学	私立大学	兵庫県
奈良学園大学	私立大学	奈良県
川崎医療福祉大学	私立大学	岡山県
梅光学院大学	私立大学	山口県
松山大学	私立大学	愛媛県
九州産業大学	私立大学	福岡県
沖縄キリスト教学院	私立大学	沖縄県
更津工業高等専門学校	高等専門学校	千葉県
沖縄工業高等専門学校	高等専門学校	沖縄県
大原和服専門学園	専門学校	奈良県

6. 3 支援情報配信サービス「Learning Support Book (LSB)」の改善

LSB を各大学の教職員がより簡便に活用でき、他大学の学生にも直接配信できるように LSB の学術認証フェデレーション(学認)への対応作業を完了した。

LSB の内容の充実を図るため、筑波大学生30名と当センターの専門職員、学外の発達障害当事者約40名により作成体制を強化し、今年度のコンテンツ数が40件(前年度15件)となった。コンテンツの詳細については、以下の表に記載した。



LSB コンテンツ一覧

コンテンツ名称	コンテンツ概要	カテゴリ
友人関係	同世代の友人とのかかわり方について、コミュニケー ション上のマナーやかかわり方のコツを紹介した。	コミュニケーションの 取り方
先輩・後輩とのかかわり 方	先輩や後輩との関わりについて、コミュニケーション上 のマナーやかかわり方のコツを紹介した。	コミュニケーションの 取り方
SNS の使い方とトラブル	主要な SNS の特徴と、SNS を利用する際の注意点を紹介 した。	コミュニケーションの 取り方
先生や指導教官とのかか わり方	指導教員や授業担当教員とのかかわり方や、教員宛に メールを送信する際のマナー、例文集を紹介した。	コミュニケーションの 取り方
ノート・メモの取り方	録音機能付きのデジタルペンや、PC でノートをとる際に便利なアプリ、ノートの取り方のコツなどを紹介した。	ノート・メモの取り方
タスク管理	日々のタスクの管理方法について、便利なアプリを中心 に管理方法の工夫を紹介した。	タスク・スケジュール 管理
スケジュール管理	カレンダーアプリやタイマーアプリ、手帳でのスケ ジュール管理のコツ等について紹介した。	タスク・スケジュール 管理
履修申請について	履修登録の際の留意点や、主に新入生に向けて授業の区 分の違いなどを紹介した。	タスク・スケジュール 管理
アルバイトの始め方	アルバイトの選択・情報収集・応募方法や留意点、履歴 書の書き方や面接でのポイントを紹介した。	学業と趣味・生活の両 立

コンテンツ名称	コンテンツ概要	カテゴリ
サークル・部活動の選び 方	サークルの選び方についての留意点や、加入のタイミング・方法について紹介した。	学業と趣味・生活の両 立
集中力アップ	ノイズキャンセリング機能付きヘッドホンやタイマーア プリ、その他集中を保つためのテクニックを紹介した。	勉強のやる気アップ・ 集中力アップ
勉強のやる気アップ	勉強のモチベーションを高められるような工夫について、便利なアプリや目標設定のポイント、環境調整の工夫などを紹介した。	勉強のやる気アップ・ 集中力アップ
試験勉強の対策	試験勉強に役立つ暗記アプリやスケジュールの立て方の コツ、授業中にできる工夫などを紹介した。	試験対策・レポートの 書き方
レポートの書き方	レポート作成のための基本的な知識や、アイディア整理 の際に便利なマインドマップ作成アプリについて紹介し た。	試験対策・レポートの 書き方
忘れ物を防ぐ方法	紛失防止のタグやリマインダーアプリ、バッグインバッ グなど忘れ物を防ぐ方法について紹介した。	忘れ物を防ぐ方法
大学生と恋愛	異性とのかかわり方や、恋人として接する際の留意点、 デート DV 等を紹介した。	コミュニケーションの 取り方
スライドの作り方	PowerPoint でスライド資料を作成する際の作成手順や留意点、作成時に活用できるアプリについて紹介した。	ノート・メモの取り方
大学生とお金	お金の管理について、便利なアプリやファイル等を活用 した管理方法、クレジットカードや学生ローンを利用す る際の留意点等について紹介した。	学業と趣味・生活の両 立
大学生と身だしなみ	身だしなみを整えるためのポイントや洗濯の際に役立つ アプリ、服装の調整のために役立つアプリ等を紹介した。	学業と趣味・生活の両 立
健康管理	食事、飲酒・喫煙についての留意点や、体調不良になった場合の連絡方法、対処法等を紹介した。	学業と趣味・生活の両 立
人の顔と名前の覚え方	人の名前や顔を覚えるためのコツや、失礼にならない名 前の尋ね方について紹介した。	コミュニケーションの 取り方
グループワーク	授業中や就職活動におけるグループワークの目的やワーク中の役割、進め方を紹介したほか、グループで課題を 行う際に便利な情報共有のためのアプリを紹介した。	コミュニケーションの 取り方
自分の気持ちの整え方	不安やイライラへの対処法や、アンガーマネジメントに ついて紹介した。	コミュニケーションの 取り方
UD トーク	UDトークの概要や、学生生活での活用例などを紹介した。	ノート・メモの取り方
大学生らしい食生活	宅配サービスや調理キットなど自炊をサポートするサービスや商品のほか、スーパーマーケットを利用する際の工夫などを紹介した。	学業と趣味・生活の両 立
朝の過ごし方	朝、余裕をもって身支度ができるようにするための工夫 や、アラーム・スケジュール管理アプリ、地図アプリな どを紹介した。	学業と趣味・生活の両 立
睡眠リズムを整える	アラームアプリや睡眠導入アプリの他、質のよい睡眠を とるための工夫を紹介した。	学業と趣味・生活の両 立
趣味の見つけ方	余暇活動について、取り組む人数や必要な費用等の側面 から整理し、大学生が取り組みやすそうな活動を紹介し た。	学業と趣味・生活の両 立
新学期に向けたこころや からだの切り替え	長期休暇から新学期への切り替えに向けて、リフレッ シュの方法や生活リズムの調整方法などを紹介した。	学業と趣味・生活の両 立
集中するための BGM	作業中の BGM のお勧めや、ホワイトノイズについて紹介した。	勉強のやる気アップ・ 集中力アップ
ごほうびボックス	ごほうびボックスの概要や、学生生活での活用例などを 紹介した。	勉強のやる気アップ・ 集中力アップ
論文管理ソフト	RefWorks や Mendeley などを利用した論文・資料管理の 方法について紹介した。	試験対策・レポートの 書き方

コンテンツ名称	コンテンツ概要	カテゴリ
文献の集め方・まとめ方	CiNii や J-Stage 等の利用方法や図書館の活用方法のほか、 資料を保存・管理するためのツールについて紹介した。	試験対策・レポートの 書き方
文章の読み方	カラーバールーペや Visor 機能等、文字を読む際に視覚的により読みやすくなるようなツールを紹介した。	試験対策・レポートの 書き方
片付け・整理整頓	片付けの方法がわからない人、気力がわかない人、物が 捨てられない人などタイプ別に片付けの方法について紹 介した。	忘れ物を防ぐ方法
障害者手帳のメリット・ デメリット	障害者手帳についての基本的な知識と、取得までの流れ、 メリットやデメリットについて紹介した。	利用学生専用コンテンツ
自立支援医療(精神通院 医療)	自立支援医療の概要と申し込みまでの手順等を紹介した。	利用学生専用コンテンツ
紛失防止タグ Tile	紛失防止タグ「tile」の概要や、学生生活での使用例など を紹介した。	忘れ物を防ぐ方法
ホワイトノイズマシン	ホワイトノイズやホワイトノイズを流すための機器など について紹介した。	勉強のやる気アップ・ 集中力アップ
就活中の気持ちの整え方	就職活動中の落ち込みや不安な気持ちに対して、リフレッシュ方法や気分を記録する日記アプリなどを紹介した。	就職活動

7 発達障害学生支援に関する各種講習会への講師依頼の対応

各大学等からの講師派遣依頼に基づき、拠点運営スタッフが19件(前年度18件)、延べ1039名に研修を行った。各種講習会の詳細については、以下の表に記載した。

講習会の詳細

日時	プログラム	会場	参加者	講師	タイトル	形式
平成31年 4月20日	発達障害 シンポジウム 2019	所沢市こども と福祉の未来 館	一般200名	佐々木銀河 (DAC センター 准教授)	発達障害の人が学びやすい 大学の環境	講義
令和元年 5月18日	第37回学生相 談学会ワーク ショップ8	学生相談学会	教職員30名	佐々木銀河 (DAC センター 准教授)	大学における合理的配慮 〜発達障害を中心としたア セスメント/支援〜	講義
令和元年 6月26日	大学マネジメ ント講義 1	筑波大学	教職員15名	佐々木銀河 (DAC センター 准教授)	大学職員のための臨床心理 学 (1)	講義/演習
令和元年 7月 1日	大学マネジメ ント講義 2	筑波大学	教職員15名	佐々木銀河 (DAC センター 准教授)	大学職員のための臨床心理 学 (2)	講義/演習
令和元年 7月 3日	大学マネジメ ント講義3	筑波大学	教職員15名	佐々木銀河 (DAC センター 准教授)	大学職員のための臨床心理 学(3)	講義/演習
令和元年 7月17日	星槎大学全学 FD 研修	星槎大学	教職員40名	佐々木銀河 (DAC センター 准教授)	筑波大学における修学・ キャリア支援の取り組み 〜顕在化しにくい「生きづ らさ」への支援とは〜	講義
令和元年 7月31日	発達障害学生 支援のための 意見交換会	ユニオンビル	教職員48名	佐々木銀河 (DAC センター 准教授)	筑波大学における修学・ キャリア支援の取り組み	講義
令和元年 8月1日	清和大学 SD 研修会	清和大学	教職員50名	佐々木銀河 (DAC センター 准教授)	特別な配慮を要する学生の 支援〜発達障害を中心に〜	講義
令和元年 8月29日	SPOD フォー ラム プログ ラム2902D	愛媛大学	教員31名、 職員41名	佐々木銀河 (DAC センター 准教授)	発達障害の診断・傾向のあ る学生の対応方法	講義/演習
令和元年 9月12日	山形大学障が い学生支援セ ンター研修会	山形大学	教員11名、 職員23名、 学生7名	野呂 文行 (人間系 教授) 佐々木銀河 (DAC センター 准教授)	発達障がいのある学生の教育・支援を考える	講義
令和元年 9月13日	東北地区障が い学生支援実 務者研修会	山形大学	専門的職員 11名	佐々木銀河 (DAC センター 准教授)	発達障がい学生にとって有用な ICT 機器やソフト・アプリ等の紹介とワークショップ	演習
令和元年 9月19日	障害学生支援 教職員研修	西武文理大学	教職員54名	脇 貴典 (人間系 研究員)	大学における障害学生への 合理的配慮と支援の実際に ついて	講義
令和元年 9月26日	中部大学職員 ゼミナール	中部大学	教職員70名	佐々木銀河 (DAC センター 准教授)	発達障害の診断や傾向のある学生に対するアセスメント/合理的配慮	講義
令和元年 11月 1日	商学部・政経 学部 FD ワー クショップ	拓殖大学	教職員72名	脇 貴典 (人間系 研究員)	支援が必要な学生への指導・支援について〜発達障害学生とのかかわり方〜	講義

日時	プログラム	会場	参加者	講師	タイトル	形式
令和元年 11月22日	神奈川県内大 学教務連絡協 議会 FD/SD 研修	横浜創英大学	教職員96名	脇 貴典 (人間系 研究員)	大学における発達障害学生 への支援について	講義
令和元年 11月27日	全学教職員研 修	千葉工業大学	教職員50名	脇 貴典 (人間系 研究員)	発達障害の特徴のある学生 への対応方法の検討 (グ ループワーク)	講義/演習
令和 2年 2月13日	神奈川大学横 浜キャンパス FD 研修	神奈川大学	教職員50名	佐々木銀河 (人間系 准教授)	大学における発達障がいの ある学生への合理的配慮に ついて	講義/演習
令和 2年 2月20日	助講会フォー ラム	日本大学	教職員70名	佐々木銀河 (人間系 准教授)	発達障害の診断や傾向のあ る学生への対応について	講義
令和 2年 2月27日	合理的配慮に 関する研修会	関東学院大学	教職員40名	佐々木銀河 (人間系 准教授)	発達障害の診断または傾向 のある大学生への支援	講義

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 教育関係共同利用拠点事業 ~多様な発達特性を有する学生に対する支援人材教育拠点~ 令和元年度活動報告書

【発行者】 国立大学法人 筑波大学 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 7305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1 共同研究棟 A113

【WEB サイト】 https://dac.tsukuba.ac.jp/radd/joint-base/

【電 話】 029-853-3888/3889

【メール】 radd-info@un.tsukuba.ac.jp



国立大学法人筑波大学 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1 TEL: 029-853-3888/3889

Email: radd-info@un.tsukuba.ac.jp